



「言葉の壁を越えたコミュニケーション」で創る「僕たち・私たちの野球」

○立川ろう学校の生徒と野球を通して得たもの（東京都秋季大会ベスト4・春季都大会予選）

最初の頃は、耳の聞こえにくい人たちとどのようにコミュニケーションをとって、一緒に野球をしていくかわかりませんでした。最初の練習で声をかけても気付いてもらえず、どうすればよいか不安になりました。投げる場所を教え、指示するのも難しかったです。しかし、立川ろうの選手が凄く一生懸命で、僕らの手話やジェスチャーを理解しようとしてくれました。立川ろうの選手達が歩み寄ってくれたことで、チームとして成長できました。今回の経験で、コミュニケーションは、声を使った会話だけではなく、手話等があることを改めて学びました。

3年 田畑 流星

合同チームで学んだことは、会話ができなくてもコミュニケーションをとることができるということです。始めは、会話ができず、どうやってあいさつや連携プレイをすればよいか不安でした。仲良くなっていく中で、少しずつ手話を覚え、野球に生かすことで、全体の連携も取りやすくなり雰囲気も良くなっていきました。僕は、今回学んだことを社会に出ても活かしていきたいと思っています。

3年 渡邊 雄輔



バラバラのユニフォームを着た高校球児たち



田畑（主将）と立川生徒の教え合い

踏んで踏んで

僕は、今回初めて、耳の聞こえにくい人とかわかることができました。その中で一番難しかったのは、コミュニケーションの取り方です。始めは、小さなことでも伝えることが難しく、うまくコミュニケーションをとることができませんでした。しかし、大西君（立川ろう学校生徒）に教えてもらうことで、だんだんとできるようになりました。立川ろうの選手と一緒にチームが組めたことは、すごく貴重な経験でとても嬉しかったです。この経験を活かし、周りの人をサポートできるようになりたいです。

2年 岩井 淳之介

今回、コミュニケーションが難しいものと改めて思いました。練習でコミュニケーションが取れないなら、当然試合でも取れるわけがなく、度々、ミスがあった気がしました。耳の聞こえにくい中、立川ろうの選手は、竹台・蔵前工業・農芸の3校と練習し、先生方の指導も積極的に理解しようとし、見習うべき姿勢がたくさんありました。この経験を、今後の自分自身のコミュニケーションに活かしていきます。

2年 松浦 希海

僕は、立川ろうの選手と野球をして様々なことを学びました。例えば、口を大きく開け大袈裟に動かすことです。これで、通じることも多かったです。他にも、手話やジェスチャーをすることです。僕は、手話が全く分かりませんが、似たような動きをすることで通じることもありました。これにより、雑談で楽しく会話できたことが嬉しかったです。今回学んだことを無駄にしないように、これから過ごしていこうと思います。また、みんなで野球がしたいです。

2年 春田 亘佑

私は、連合を組んで、コミュニケーションの大切さと難しさを学びました。声で会話することが難しいため、うまく伝わらないことが多々ありました。特に、連携プレイでは必要不可欠な声が出ずに、ミスを多発し、改めてコミュニケーションの大切さを感じました。練習や試合は不安でしたが、練習前レクリエーションや手話講座をしたことで、意思疎通を計れるようになりました。また、立川ろうの選手の急成長を見て、自分ももっと頑張らなといけなと刺激をもらいました。

2年 須合 りお



声に頼らずアイコンタクトだけでタイミングがかわらないように順番に手をあげていく



1回戦 対 帝京高校

VS 帝京（14-2圧勝！！）

VS 都立豊島（格上相手に大接戦！）

チーム	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計
竹台 蔵前工業 農芸 立川	0	0	1	0	1						2
都立豊島	0	2	0	0	0						2



聞こえる選手たちの中に飛び込み 自分自身と向き合い続けたろう学校の球児たち

立川ろう学校と一緒に合同を組んで学んだことは、「自分から伝える努力をする大切さ」と「簡単にコミュニケーションがとれるのは当たり前じゃない」ということです。立川ろうの選手から質問を受けた際に、即答できませんでしたが、ジェスチャーで聞き返すとお互いの言いたいことが伝えられた気がしました。もしも、自分が耳が聞こえにくかった時、耳の聞こえる人たちとスポーツをすることになったら心を閉ざさず、怖くて何もできないと思いません。それでも、立川ろうの選手達は他の学校の人とコミュニケーションをとって楽しそうに野球をしていて、凄さを感じたとともに、自分から気持ちを伝える工夫と努力をすることは大切だと思いました。

2年 秋山 莉瑚

私が初めて接した「耳の聞こえにくい」人が立川ろうの選手達でした。連合の練習に初めて行ったときはマネージャーとしてどのようなサポートができるか不安でした。ですが、そんな不安も、笑顔のあふれる立川ろうの選手達に会って、徐々になくなりました。言葉だけではなく、簡単な手話や顔の表情だけでも十分な会話できました。立川ろうの選手達は、自分が試合に出ていなくても、精一杯声を出して野球を真剣に楽しんでいます。私はそんな皆さんを尊敬します。

2年 大島 千奈

【参考】NHK 放送番組「ろうを生きる～その球は、俺が捕る～」